

医学部受験のための英語対策

英語は優れた知識を得るための道具
本の通読で「ごまかし」のない力を養え

■平岡塾 藤井 学 講師



これから医学部を目指そうとしている受験生は、英語を小手先の受験テクニックで勉強するのではなく、一つの言語として向き合って勉強してほしい。英語を一つの言語として学ぶとは、英語で書かれている論文や小説の内容を、きちんと理解することである。そのためには、英語の文法や単語を身に付けるのは当然のことだが、文章全体の展開や味わい、さらには叡智をつかみ取る力を付けることである。

英語で知見を得るのは世界の常識

受験生に対してあえてこう指摘するのは、英語の勉強は受験のためだけにするものではないからだ。医学部に入れば、英語で書かれた論文を当たり前に見ることになる。日本人だけでなく、世界中の研究者が英語で論文を書いている。

「優れた論文は英語で書かれている」「最新の知見は母国語への翻訳など待たずに英語で読む」というのは、学術の世界では常識であるし、ビジネスの世界でもそうなりつつある。そうして優れた知見を得て、世界中の人たちとコミュニケーションを取っていくのにもやはり、ごまかしのない「使える」英語力が必要になってくる。

ここで言う「ごまかし」とは、例えば受験英語のテクニックの一つと言われている、「パラグラフ・リーディング」である。これは、一つひとつの段落の重要と思われる文だけを読み、要旨をつかんでいく手法だ。確かに、長文問題でも、

要旨を理解するだけで設問に解答できることがある。しかし、そうした問題に解答できたとしても、本当の英語を理解したことにはならない。

意味が分かる単語だけを拾い読みするだけで、問題に解答できることもある。英語に慣れ始めた中学生、高校生がよく「フィーリング」と言っている方法で、これもごまかしにほかならない。そうではなく、文法、語彙の力を着実に伸ばしていき、論理や物語の展開を正確に把握し、著者の主張をきちんとつかむことが重要だ。

英語を日本語に置き換えるポイント

英語で書かれた文章の全体の展開や主張を理解するためには、論文や小説などの本を1冊、最初から最後まで読み通すのが良い訓練になる。

その際、書かれている英語を、和訳せずに「英語で理解」できるようになるのがベストだ。しかし最初からこれをやり通すのは難しいので、徐々に進めていくのがよい。ただし、訳文を正しい日本語にする必要はない。

例えば、「I have a pen」とあれば、「私は持っている ペンを」といった具合にする。つまり英語で書かれている語順の通りに訳していく。

「I have a pen in my hand」とあれば、「in my hand」を一つの句として理解することが大切。そのため、「私は持っている ペンを 私の手の中に」と置き換えることになる。そうすることで、主語、動詞、補語、目的語から成る文

型が理解できるようになる。

ここでは訳文を文字にしたが、何も書かないのが理想だ。文字にせず、頭の中で考えたほうがよい。そうすることが、英語を英語で理解する第一歩となる。実際の入試では、長文の訳文をいちいち書いていては、とても時間が足りないということもある。

知らない単語は前後から意味を推測

長文を読むときに、知らない単語は必ず出てくる。大事なものは、知らない単語がなくなるように単語の暗記に多くの時間を割くのではなく、意味を推測する訓練を積んでおくことだ。受験用の単語帳には絶対に載っていないような専門用語にはたいてい、注釈が付く。文章全体の展開を理解できていれば、知らない単語が出てきても、文脈や論理などから推測できるようになる。

知っているはずの単語でも、時に辞書に載っていない意味で使われることがある。文章の論理展開を理解できていないと、覚えた意味に拘泥し、結果的に間違っ解釈してしまう。辞書を使って学習する際には、引く前にまず意味の推測をするようにしたい。これは、意味を複数持つ単語の意味を選び取る時にも役立つ。

国語でも同じだと考えると分かりやすいだろう。日本語の読解力がある日本人であれば、知らない日本語が出てきても、前後の文脈でその単語がどのような意味を持っているのかを理解できる。英語でも同様である。